

事 務 連 絡
令和3年12月21日

釜石記者クラブ 各位

釜石市 危機管理監 菊池 拓也

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定に係る市長コメントについて
このことについて、別紙のとおり市長コメントを送付いたします。

【担当課：危機管理監 防災危機管理課 0193-27-8441】

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定について

令和3年12月21日、二之湯内閣府特命担当大臣が記者会見で公表した「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定」について、次のとおりコメントいたします。

令和3年12月21日

釜石市長 野田 武 則

本日、公表された被害想定では、地震の発生時期・時間帯を3つのパターンに分類し被害量を推計している。日本海溝モデルの岩手県分の被害推計のうち冬期間の深夜の犠牲者数をみると、早期避難率が高い場合には約3,200人、早期避難率が低い場合には約11,000人と推計されており、東日本大震災時の県内の犠牲者数の約2倍の推計値となっております。

国が示した被害想定は、地方自治体のみならず、地域や一人ひとりの個人や事業者等が、防災対策を検討する上で、備えるべきことを具体的に確認するための材料として作成されたものであります。

今回想定している地震・津波は最大クラスのものであり、広域にわたり甚大な被害が想定されておりますが、厳しいからといって、住民が避難をはじめから諦めるようなことがあってはなりません。

国においては、地方自治体が実施する防災対策への力強い支援策を講じることはもちろんのこと、引き続き、防災対策の効果等も併せて伝えていきながら、住民の不安解消に努め、いたずらに住民の不安を煽ることが無いような配慮をお願いいたします。

今後も国・地方自治体はもちろんのこと住民・事業者が一体となって、誰一人として犠牲にならない津波防災対策に取り組んでまいります。